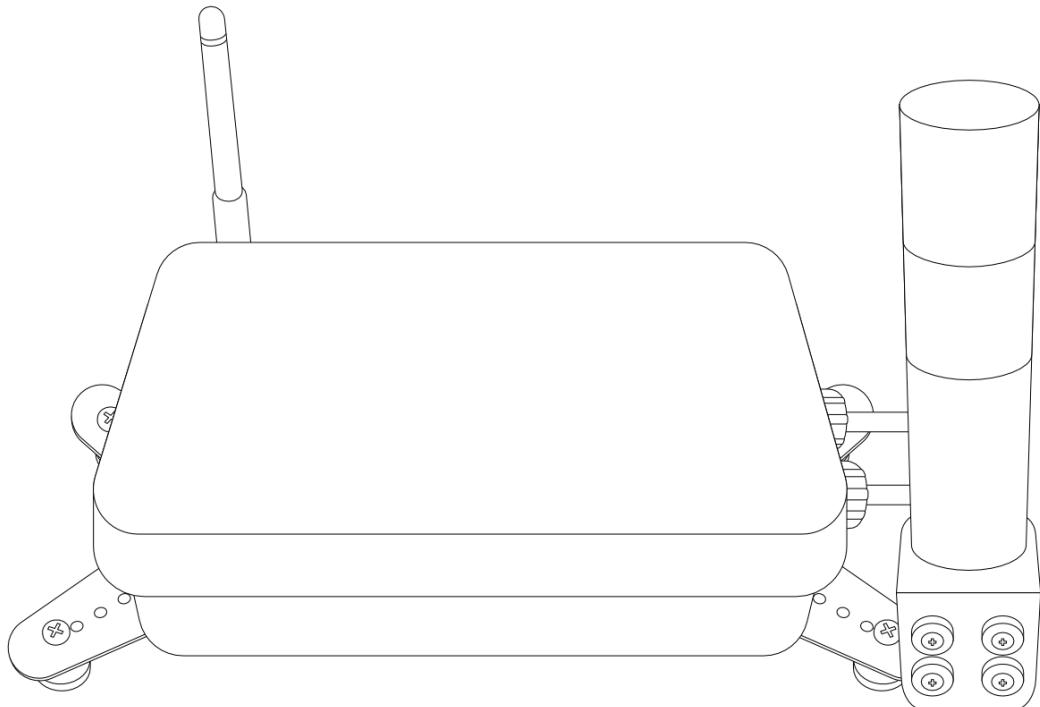


技術基準適合認証品(認証を受けた製品を製品本体内部に組込み)

 R217-204070

ヒヤリハンター One

取扱説明書1.0.2



本製品は、タグを持った作業者の接近をトリガー磁界で検知し、

車両のオペレーターに警報でお知らせする安全補助装置です。

一体型になった事で従来のヒヤリハンター製品と比べ設置がより簡単になっています。

- 取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にご使用ください。
- ご使用の前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- 本書は、一体型ユニット（型番：MXRT-HT-N01）と、別売の信号灯（型番：MXAL-HT-008）をセットにした製品構成に関する取扱説明書になります。
- 本書に書かれている情報は2025年5月現在のものです。製品の仕様など、内容は予告なしに変更されることがあります。

 MATRIX

RFID・ICタグの総合メーカー
株式会社マトリックス
<https://matrix-inc.co.jp/>

目次

安全上のご注意	3
製品概要	7
各部の名称・仕様	8
取り付け方法	10
配線接続図	12
動作確認	13
各種設定	15
製品の仕様	22

安全上のご注意

人への危害や財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただくことを説明しています。

誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区別して、説明しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または傷害を負う可能性および、物的損害の可能性があります。

お守りいただく内容の種類を絵記号で区別して、説明しています。



気をつけていただく内容です。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

免責事項について

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。



警告

電源コード・電源プラグの取り扱いについて



異常・故障時は直ちに使用を中止し、電源をOFFにする。

- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
 - 内部に水などの液体や異物が入った
 - 本機に変形や破損した部分がある
- そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
- ※すぐに電源をOFFにして使用を中止し修理をご依頼ください。
- ※お客様による修理は危険なため、おやめください。



濡れた手で、電源を抜き差ししない

感電の原因になります。



傷んだ電源線は使用しない。破損するようなことはしない。

- 傷つける、加工する
- 熱器具に近づける
- ねじる、無理に曲げる、引っ張る、束ねる、重い物を載せる など
感電やショートによる火災の原因になります。



電源の定格を超えて使わない。

発熱による火災の原因になります。



電源線は確実に接続する。

接続が不完全ですと、火災・感電の原因になります。

本体の取り扱いについて



本機の上に液体の入った容器などを置かない。

液体が内部に入ると火災・感電・故障の原因になります。



水を入れない。

火災・感電・故障の原因になります。



高圧洗浄しない。

水が入り、火災・感電・故障の原因になります。



雷が鳴ったら、本機や電源線、アンテナ線に触れない。

感電の原因になります。



本機を改造しない。

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電・故障の原因になります。



不安定な場所に置かない。

倒れたり、落ちたりしてけがの原因になります。

- 台を使用する場合はぐらつきがない堅固なものをご使用ください。
- スタンド設置面は平らで十分に強度があることをご確認ください。



内部に金属類・燃えやすいものなどの異物を入れない。

火災・感電・故障の原因になります。

特にお子様にはご注意ください。



温度差の激しい環境下では使用しない。

温度差が激しいと結露が発生し、感電・故障の原因になることがあります。



ふたを開封しない。

ふたを開封した場合、改造とみなし、製品保証を受けられません。



設置工事は、工事専門業者にご依頼ください。

設置工事が不完全ですと、死亡・けがの原因になります。

設置工事を行う場合は、必ず取扱説明書をお読みの上、定められた手順に従ってください。

また、事前に必ず実機での動作確認を行ってください。



警告

本体の取り扱いについて



湿気やほこりの多い所、油煙や湯気が当たるような所に置かない。

火災・感電・故障の原因になることがあります。



強い衝撃を加えない。

けがの原因になることがあります。



本機の上に物を置かない、乗らない。

倒れたり、壊れたり、落下してけがの原因になることがあります。



接続ケーブルを無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしない。

火災・感電・故障の原因になることがあります。



電源が入った状態で接続ケーブルを抜き差ししない。

火災・感電・故障の原因になることがあります。



大雨、強風等の環境では使用しない。

機器の内部に水が入る恐れがあります。



機器の足元(マグネット部)を水に漬けない。

機器の内部に水が入る恐れがあります。



駐停車中のエンジン停止時は使用を控えてください。

バッテリーの消耗・異常加熱の原因になることがあります。



運転の妨げになる場所に設置しないでください。

重大な交通事故の原因となります。



接続ケーブルを壁面に挟んだり、足を引っ掛けたりしないように処理を行う。

火災・感電・けがの原因になることがあります。



移動させる前に接続線などを外す(電源線、アンテナ線、機器間の接続線や転倒・落下防止部品)

電源コードや本機が損傷し、火災・感電・故障の原因になることがあります。



保管場所を確認する。

以下の場所での保管は避けてください。

- 直射日光のあたる場所
- 高温多湿の場所
- 落下する可能性のある不安定な場所
- 急激に温度変化する可能性のある場所
- 振動の激しい場所や埃の多い場所
- 静電気を帯びやすい場所
- 腐食性、可燃性のガスが発生する場所



製品の表面をシンナー、アルコール、ベンゼン等の揮発性物質又は有機溶剤で拭かないでください。又ゴムやビニールを長時間付着させないでください。

表面が変質したり、塗装がはがれる可能性があり、故障および火災の原因となることがあります。



取り付け・アース接続には、ハンドル・ブレーキ・タンクなどのボルトやナットを使わないでください。

制動不能・火災の原因となることがあります。



製品装着後、ブレーキランプ・ライト等の各機能が正常に動作することをご確認ください。

車両に不具合が発生することがあります。



日常点検及び定期点検を実施する。

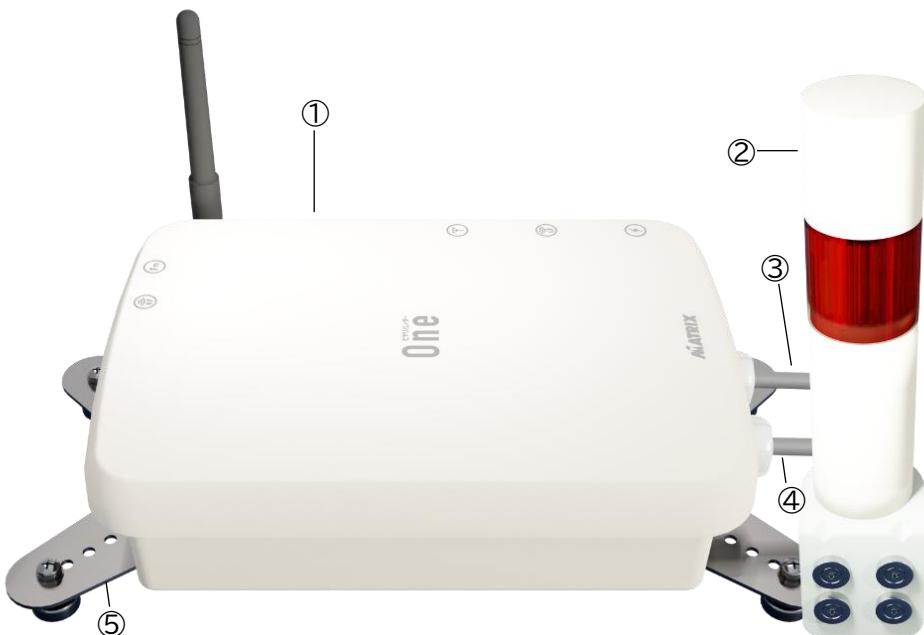
本製品の機能を常に正常に保つために日常点検及び定期点検を心がけてください。

- 本製品は車両に接近する作業者の接近をお知らせするものです。車両と作業者の事故を未然に防止するものではありません。
- 本製品の作動の有無にかかわらず、車両と作業者の事故が発生した場合の損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本製品の故障や本製品の使用によって生じた損害、フォークリフト、重機の損害については、当社は一切責任を負いません。
- お客様または第三者が設置工事を行った際の事故、損害に関して当社は一切の責任を負いません。また、動作の不具合等が生じた際の修理及び交換等のご要望に関して緊急の対応が出来ない場合がありますのでご留意ください。
- 所定の検知エリアに進入しないと警報装置が作動しません。
- 検知距離については車両への本製品の設置状況、環境により前後致します。
- 高ノイズ環境や、金属物、遮蔽物により検知距離や、受信感度が変化する場合がございます。
- タグは内部に電池を持つアクティビタグです。電池寿命については使用状況により変わります。電池が無くなった場合はお客様にて電池の交換をお願い致します。
- 本製品の使用および維持管理はお客様の責任において行われるものとします。
- 水や薬品を掛けての機器筐体清掃、つけおき洗浄等は行わないで下さい。機器内部に浸水する恐れがあります。
- 機器筐体底部が水に漬からない様に設置してください。

製品概要

本製品は、タグを持った作業者の接近をトリガー磁界で検知し、車両のオペレーターに警報音と光で通知します。

■ 製品



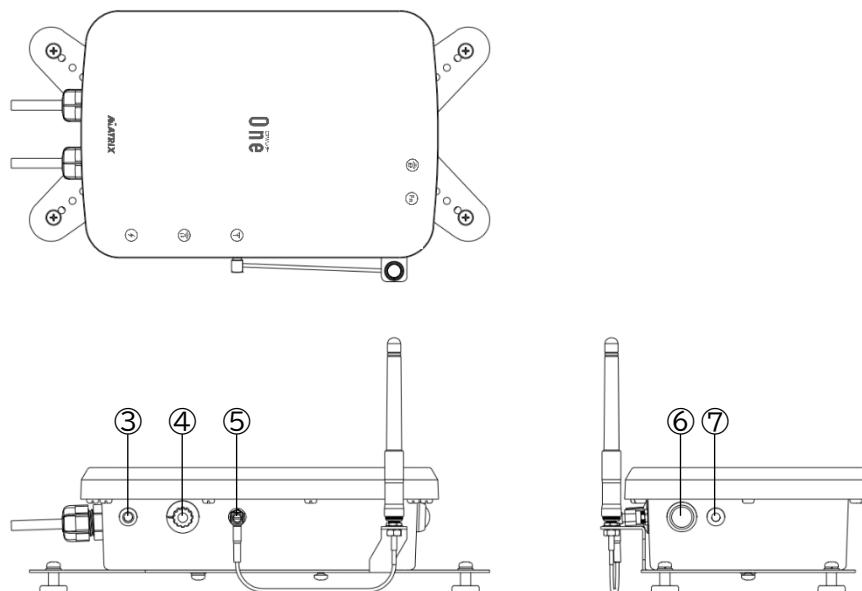
①	一体型ユニット	トリガー信号生成 受信データ処理 接点出力(警報出力)、接点入力の制御 トリガー磁界を出力 タグの電波受信
②	信号灯	音と光で警報 取扱説明書(別冊)
③	電源ケーブル	ケーブル長: 3m
④	接点入出力ケーブル	ケーブル長: 2m
⑤	取り付けベース	ネオジム磁石固定用取り付けベース

■ 付属品

- ・RF受信アンテナ×1
- ・ヒューズBOXハーネス×1
(ミニ平型ヒューズ 5A内蔵)
- ・アース用ハーネス×1
- ・高圧洗浄禁止ラベルシール×2
- ・信号灯ユニット(型番MXAL-HT-008)×1
- ・信号灯ユニット取扱説明書×1
- ・信号灯ユニット設置手順書×1

各部の名称・仕様

一体型ユニット



① 接点入出力ケーブル

付属の信号灯のケーブルに接続してください

② 電源ケーブル

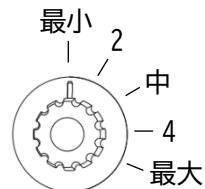
電源入力ケーブル(DC12~48V入力)

③ 電源LED

通常時は緑色に点灯

④ トリガーレベル切り替えスイッチ

トリガー出力レベル調整用(5段階)



⑤ RF受信ケーブル

アンテナエレメント接続ケーブル

⑥ ファンクションスイッチ

3秒長押しするとWi-Fi APモードで起動します(再起動)

10秒長押しするとネットワーク設定を初期化します

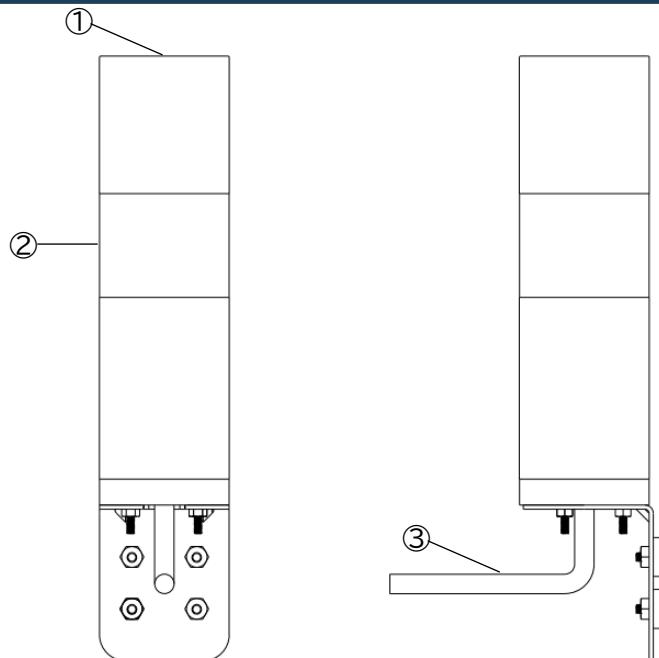
⑦ ステータスLED

タグ検知時 赤色点灯

Wi-Fi APモード時 0.5秒間隔で点滅

トリガー異常時 一定周期にて2回点滅

信号灯



① ブザーユニット

タグ検知時

ブザー発報

② 赤色ユニット

タグ検知時

赤色点灯

③ 接点入出力ケーブル

ケーブル長: 1m

一体型ユニットのケーブルに接続してください。

取り付け方法

一体型ユニット

1. 一体型ユニットの取り付け

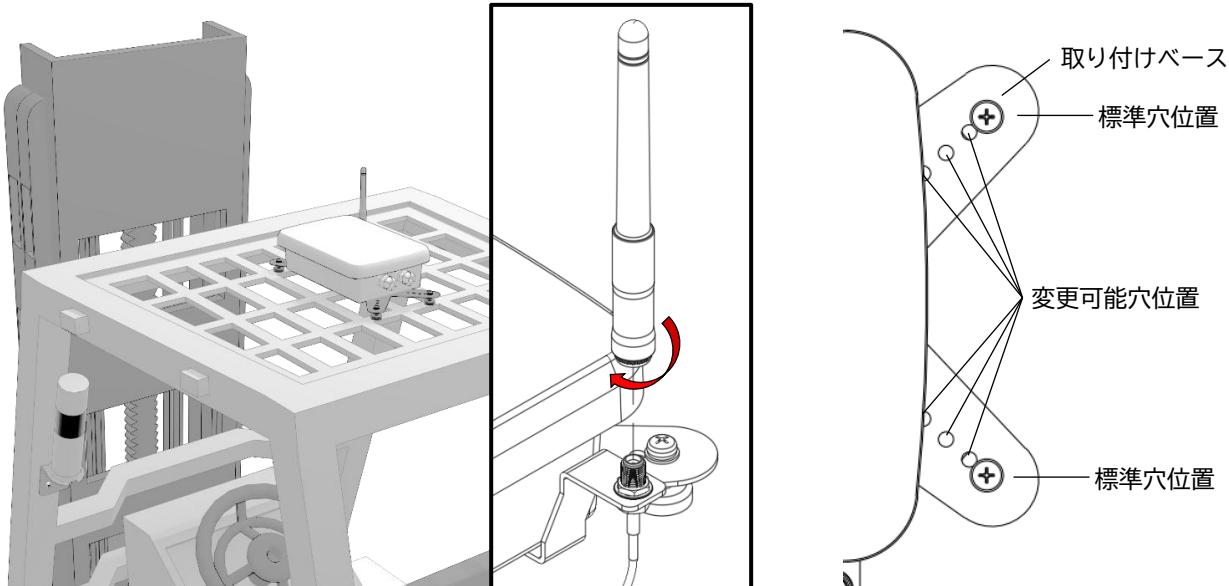
一体型ユニットの出荷時には受信アンテナが取り付けされていませんので下記図を参考に付属の受信アンテナを取り付けてください。取り付けベースにネオジム磁石が組み込まれていますので一体型ユニットを下イラスト位置を参考にフォークリフトのルーフ中央を目安に設置してください。

磁界は金属の影響を受けやすい為、フォークリフト天井へ設置してください。

ヘッドガード内側に設置すると磁界が上手く生成されない場合があります。

※ルーフフレームとネオジム磁石の位置が合わない場合は、磁石の取り付け穴位置を変更してください。

※ネオジム磁石を固定する際は、磁石本体を**ペンチ等で固定しながら**ネジを締めてください。

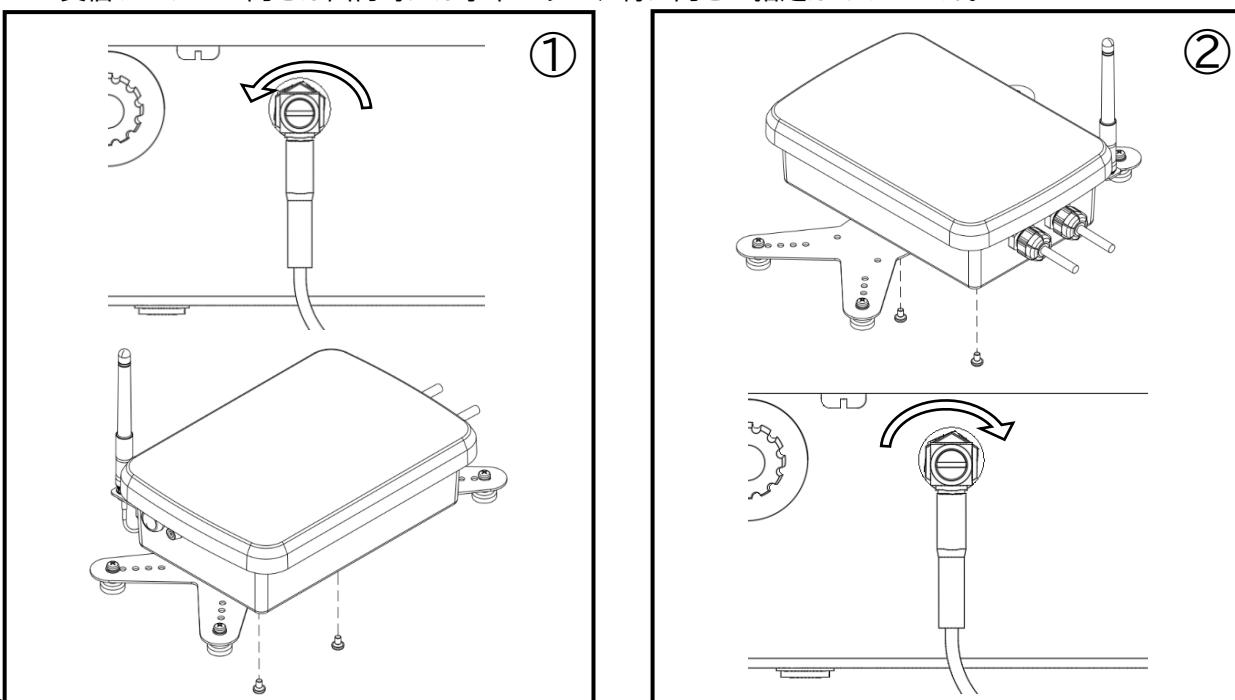


一体型ユニットの取り付けベースは90°回転した向きに変更することができます。向きを変えるには、以下の手順で取り付けベースをいったん取り外し、向きを変えてから固定し直してください。

- ① アンテナケーブル端子を外して、取り付けベースの固定ネジ2本を取り外してください。
- ② 取り付けベースが図の方向になるように変更して固定ネジ2本をしっかりと締めてください。
その後アンテナケーブル端子を締めてください。

※必要であれば固定ネジにネジロック材等を塗布して下さい。また定期的に緩み確認を行って下さい。

※RF受信ケーブルの向きは出荷時には水平ですが、特に向きの指定はありません。



2. 高圧洗浄禁止シールの貼り付け

付属の**高圧洗浄禁止シール**を運用時によく見える位置に貼り付けを行ってください。
高圧洗浄を使用した影響による故障は**保証の対象外**となりますのでご注意ください。

貼付け場所例



貼付け場所例



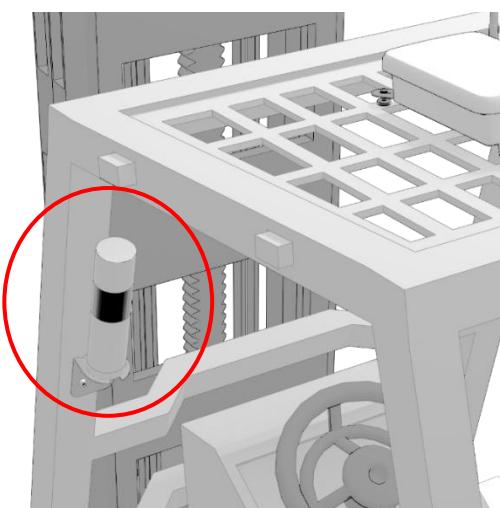
信号灯

1. 信号灯の取り付け

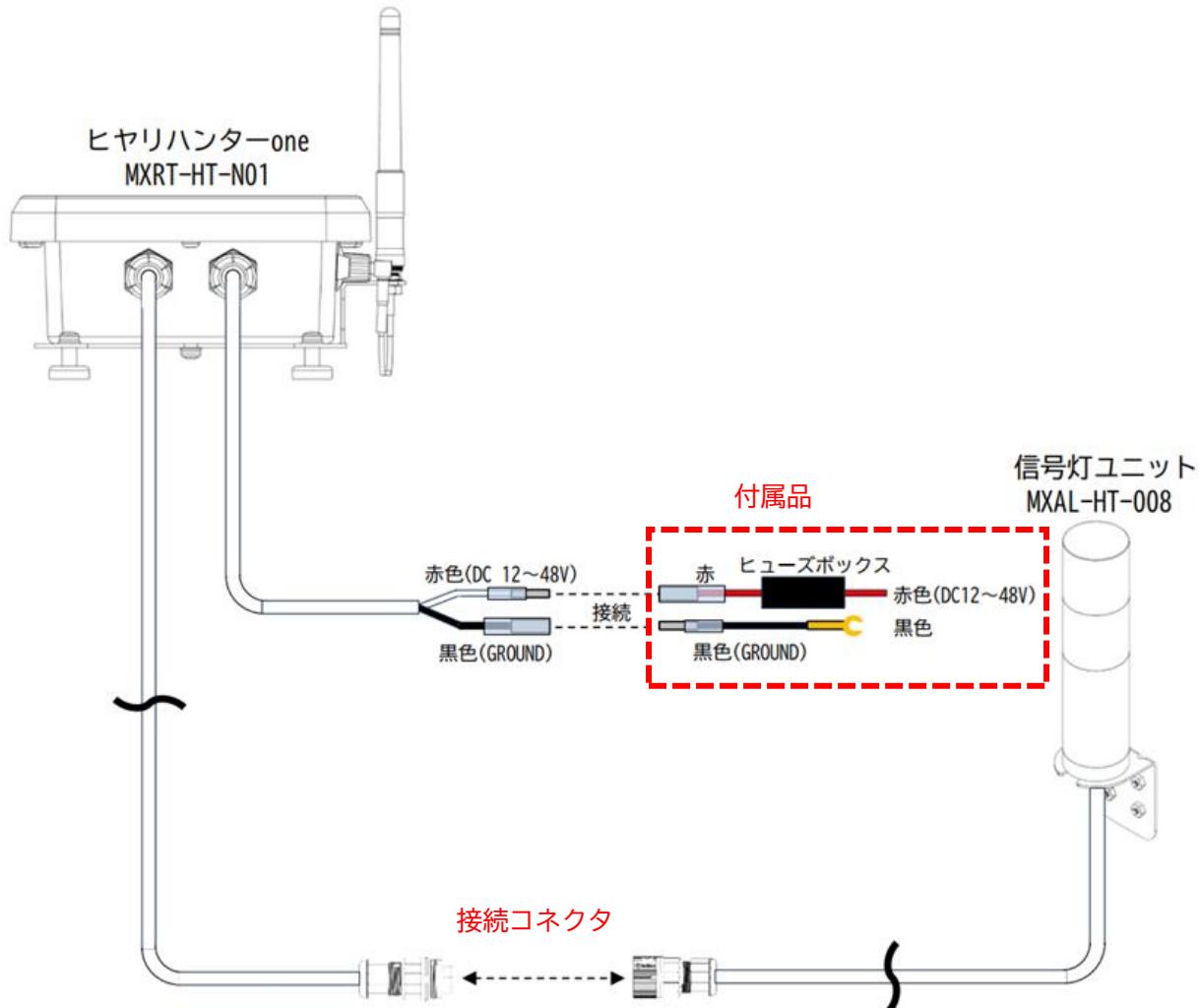
信号灯には出荷時から取付ベースにネオジム磁石が組み込まれています。

下の図を参考に運転者から見える位置を目安に設置してください。

※配線が下になる向きで取り付けを行ってください。



配線接続図



ショート防止の為、作業を行う前に車両のバッテリー端子を外してください。



電源ケーブルの接続端子の方向と差し込み方法を確認してください。

接続端子は最後まで差し込んでください。差し込みが不十分な場合、誤作動、故障発生の原因となります。



電源ケーブルの接続端子以外の接続部は**必ず保護処理(防水処理)を行って下さい。**

また一体型ユニットと信号灯を繋ぐ接続コネクタのロックナットは**確実**に締めてください。

ご注意

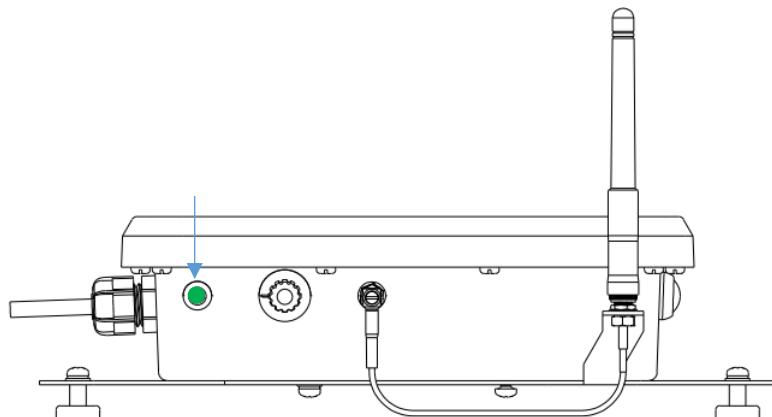
- 接続作業時には車両側の電源電圧を確認してください。
- 本製品は、DC12V～DC48Vに対応しています。
- 本製品の消費電力は最大15Wです。
- 電源はキーオンで供給される箇所から取り出して下さい。
- 必ず付属のヒューズ内蔵ケーブルを使用し電源を取り出して下さい。
ヒューズを介さずに電源を取ると、故障の原因になります。
(※ドライブレコーダーや警報器類と同じヒューズで配線しないでください。)

動作確認

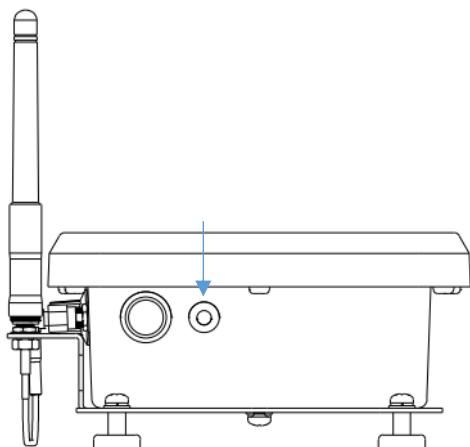
各ケーブル接続後、正常に動作するか実際のタグを使って確認します。

■ 確認手順

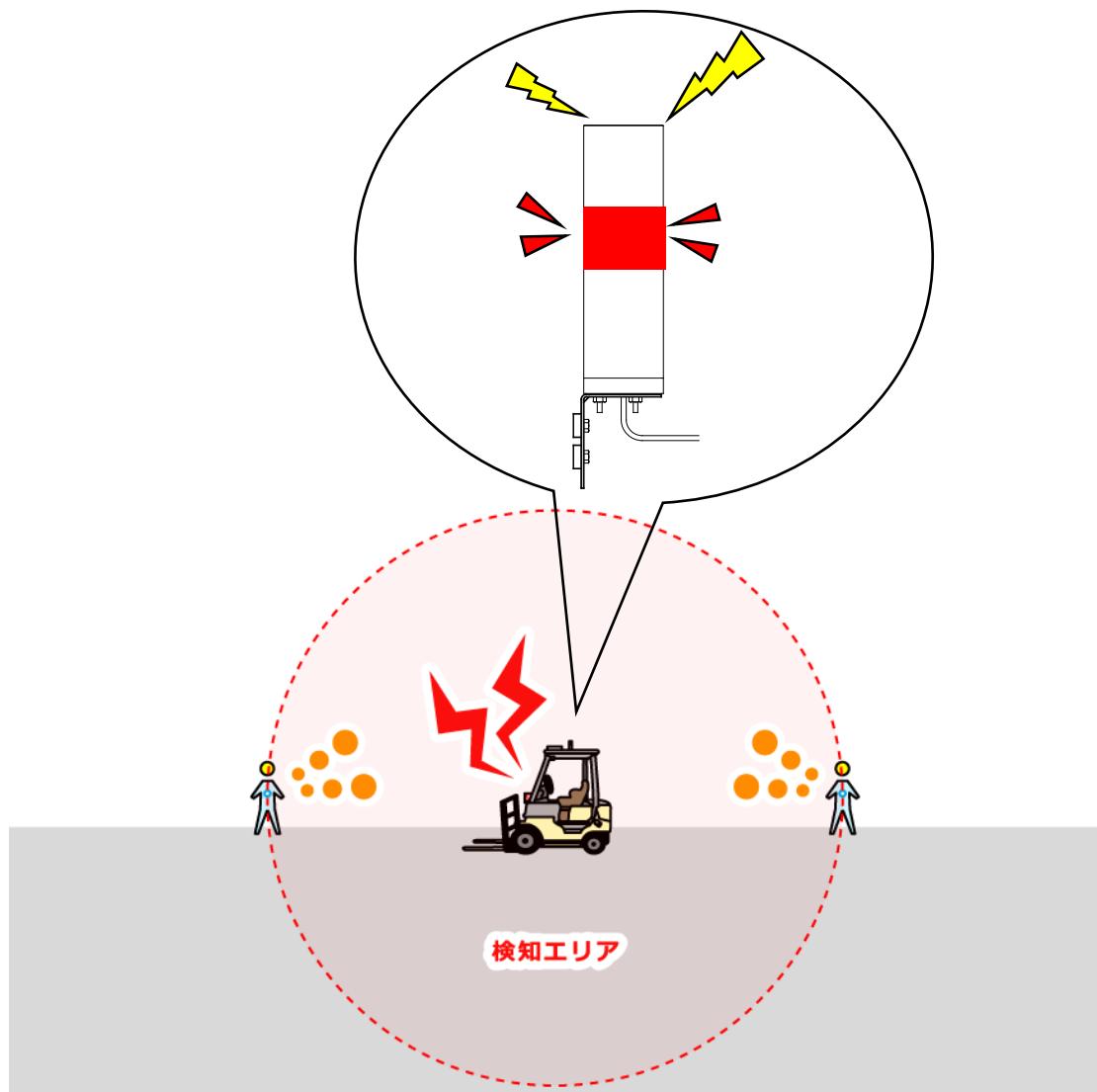
1. 車両のまわりにタグがないことを確認する。
2. 車両をキーオンにし、電源を供給する。
3. 電源LEDが緑色に点灯している事を確認する。



4. ステータスLEDが消灯している事を確認する。(トリガー異常時は一定間隔で2回点滅します。)



5. タグを所持した作業者が車両に接近した際に、信号灯が赤く点灯し、ブザーが鳴動することを確認してください。

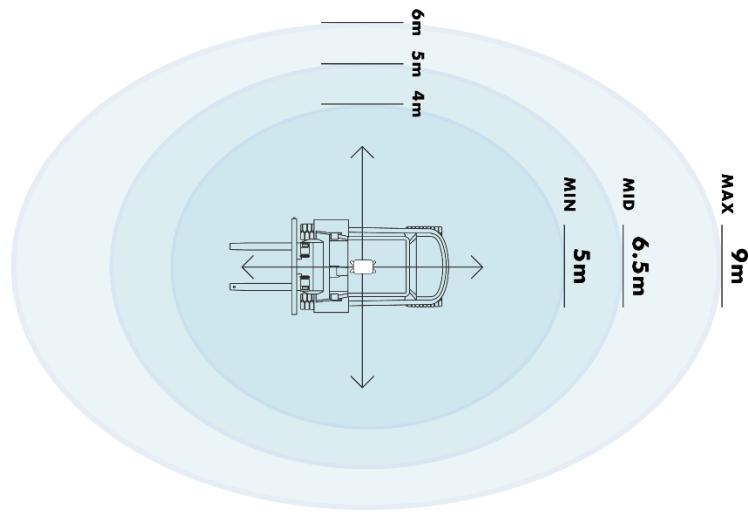


6. 一体型ユニットは本体の周辺にトリガーマグネットを発生することで、ICタグを検知する領域を発生させます。

下図の距離を参考に必要になる検知距離となるように、トリガーレベル切り替えスイッチのVol設定を調整してください。

※下記図は一体型ユニット長手方向が車両進行方向の向きに設置した場合の図になります。

また、下記図は弊社製L感度タグを使用した場合の検知範囲を表しています。



	M感度	L感度
VOL1	前後3.5m 左右2.5m	前後5.0m 左右4.0m
VOL2	前後4.0m 左右3.0m	前後6.0m 左右5.0m
VOL3	前後4.5m 左右3.5m	前後7.0m 左右5.5m
VOL4	前後5.5m 左右4.5m	前後8.5m 左右6.5m
VOL5	前後6.5m 左右5.0m	前後9.0m 左右7.5m

※距離は目安(環境によって変化)

※一体型ユニットからの検知距離

各種設定

各種設定は、一体型ユニットとPCをWi-Fiで接続してウェブブラウザで行います。

事前準備

PCと接続

1. 一体型ユニットの電源を入れ、ファンクションスイッチを3秒間長押しし、本機をWiFi APモードにします。
(p.8参照 赤色のステータスLEDが点灯するまで3秒間長押しします。)
PCやスマートフォンのWiFi接続設定から、「MTR-One-G-」から始まるSSIDを選択し、パスワードを入力します。自機のSSIDは一体型ユニット側面ステータスLED横のIDシールに記載されています。
近辺で本機器が同様に複数台動作している場合、SSIDが複数表示される事がありますのでご注意ください。

SSID : MTR-One-G-xxxxxxxxxxxx

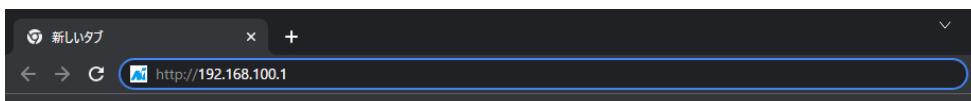
パスワード : matrix_1980



2. WiFi接続完了後、ウェブブラウザより以下のURLにアクセスしてください。

スマートフォンをご使用される場合は、本体に貼り付けているQRコードシールをカメラで読み取ることで簡単にアクセスすることができます。

URL: <http://192.168.100.1>



3. 機器の設定画面が表示され、各種設定の変更が可能になります。

POWERTAG Reader Settings			
Release Version : One - 0.1.7 / 18.01			
通信設定	ホストIPアドレス	192.168.2.1	Save (*)
	ホストポート	53125 (1024-65535 Default:53125)	Save (*)
受信動作	機器ID	1 (1-65535 Default:1)	Save
	Ethernet		
トリガー	MACアドレス	E8-6B-EA-FC-6A-0B	
	IPアドレス	192.168.2.215	Save (*)
日付時刻	ゲートウェイ	192.168.2.1	Save (*)
	ネットマスク	255.255.255.0	Save (*)
接点入出力	再起動		
	(*)このマークの設定は再起動後に効力になります。		
詳細設定	WiFi		
	WiFi モード	無効 (Default:無効)	Save (*)
Ethernet	EthernetとWiFiの同時使用は非推奨です。 (一時的な場合は除く)		
2025 Copyright(C) by Matrix inc., All Rights Reserved.			

※設定変更可能な時間は、APモードへ遷移後10分間となります。10分を経過すると自動で再起動がかかりますのでご注意下さい。但し、設定変更等の通信が発生する度に10分間の延長となります。

設定項目

通信設定

項目	説明	下限値	上限値	初期値
ホストIPアドレス	接続先PCのIPアドレス	—	—	192.168.2.1
ホストポート	接続ポート番号 (クライアントモード時のみ)	1024	65535	53125
機器ID	本製品のネットワーク内の識別番号	1	65535	1

有線LAN設定

項目	説明	下限値	上限値	初期値
MACアドレス	本製品の有線LAN側MAC アドレス	—	—	—
IPアドレス	IPアドレス	—	—	192.168.2.215
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイ	—	—	192.168.2.1
ネットマスク	ネットマスク	—	—	255.255.255.0

WiFi設定

項目	説明	下限値	上限値	初期値
Wi-Fiモード	[無効]: WiFi を無効にします [ステーション]: 本機器を WiFi 子機として WiFi アクセスポイントに接続するモード	—	—	無効
MACアドレス	本製品の Wi-Fi 側 MAC アドレス	—	—	—
Wi-Fi SSID	WiFi 親機の SSID を入力	—	—	—
Wi-Fi パスワード	WiFi 親機のパスワードを入力 (ステーションモード設定時のみ) ※入力可能文字は 0-9/a-z/A-Z/スペース以外の記号	—	—	—

受信動作

項目	説明	下限値	上限値	初期値
ブザー時間	タグデータ受信時のブザー鳴動時間と動作モードを設定 (10ミリ秒単位) [S受信時に鳴動]: [S]データ受信時のみ、ブザーが鳴動 [X受信も鳴動]: [S]及び[X]データ受信時に、ブザーが鳴動 [連続鳴動]: データ受信毎にブザーが鳴動	0	200	0(ブザーoff) [S受信時に鳴動]
保持時間	[E]発行までの待ち時間 (10ミリ秒単位) ※通常は50以上に設定	1	300	200
電池確認回数	電池情報を確定させるまでのタグ受信回数	1	10	1
ログデータ	受信ログの位置情報を表示し、【Erase】ボタンで保存された受信ログのバッファを初期化します。 初期化するとログの開始位置は最初に戻ります。 ※ログデータ削除には、最大6秒かかります。削除中の受信タグデータは破棄されます。			
受信タグデータ	「表示する」にチェックを入れると最新の32件分の受信タグデータが表示されます。 ※3秒毎に自動更新			

本製品内部のログデータはログシーケンス、ログインデックスにより一意に特定されます。

ログシーケンス (0~6)	ログインデックス (0~3999)	ログデータ
0	0…3999	1つのログシーケンス内のタグ受信データログ件数は4000件
1~6	0…3999	以降、同様に繰り返し ログシーケンス6の次は0に戻ります。

■ トリガー設定

項目	説明	下限値	上限値	初期値
出力有効	トリガー出力のON/OFFを設定。	—	—	ON
エリアID ※1	トリガー出力エリアIDを設定	1	247	1

※1 「Link to IOPorts-AreaID & AreaID-Filter」にチェックを入れておくと、後述の接点出力エリアIDとエリアIDフィルターにも自動セットされます。(基本的にチェックを外す必要はありません)

■ 日付時刻設定

項目	説明	下限値	上限値	初期値
日付時刻取得	本製品の現在時計を表示	—	—	1970/01/01
日付時刻設定	本製品の時計を設定 [Easy]：PCの現在時計を本製品に設定	—	—	—
SNTPモード	SNTP時刻同期モード (無効以外の設定時は、起動時にも時刻同期が行われます) [無効]：SNTP 時刻同期しない [指定時刻]：1 時間単位の指定時刻に同期(0 時～23 時 1 日1 回) [毎時]：1時間単位の指定時間毎に同期(1～23 時間毎)	—	—	無効
SNTPサーバー名/IP	SNTPサーバーのIPアドレス設定 ・ドメイン入力対応 ・LAN 内にあるSNTP サーバー指定を推奨	—	—	192.168.2.1
SNTPポート(UDP)	SNTP に使用するUDP ポート番号を設定	1	65535	123
SNTP同期タイミング(※)	SNTP時刻同期を開始する時刻又は間隔を設定 ・指定時刻モード時は、時刻値になる ・毎時モード時は時間隔値になる(0設定時は1 時間毎となる)	0	23	2
SNTP タイムオフセット(UTC)	SNTP 時刻(UTC 時刻)からのタイムオフセット時間を設定	—	—	+9:00:00 (JST)
最新同期時刻	最後にSNTP 時刻同期が完了した時刻を表示	—	—	—
最後に実行した時刻	最後にSNTP 時刻同期を行った時刻及びフラグ値を表示 フラグ値 [00]：未実行 [01]：正常完了 [16]：タグ受信中により時刻同期が出来なかつたことを示します [17]：ネットワーク異常により時刻同期が出来なかつたことを示します [18]：異常時刻値受信により時刻同期が出来なかつたことを示します	—	—	—

※SNTP時刻同期機能は、あくまでも簡易版です。数十ミリ秒以下オーダーでの正確な時刻同期はできません。

■ 接点入出力設定

項目	説明	下限値	上限値	初期値
DI1モード DI2モード	[何もしない] [ログ出力] [ログ出力+D0 全て OFF] [ログ出力+トリガー出力OFF] 表1を参照	—	—	[何もしない]
DO動作モード	D01~4に対する共通の設定 [PCコマンド制御] [SでON (D0時間でOFF)] [SでON/EでOFF] 表2を参照			[SでON/EでOFF]
DOエリアID	動作するエリアIDを設定 0設定時は全てのエリアIDで動作	0	247	[D01] : 1 [D02] : 1 [D02] : 1 [D02] : 1
DI0ステータス	現在のDI0入出力状態を表示			

表1

何もしない	DIの接点入力がON-OFFしてもログデータに保存しません。ただし、内部では検知しているので、通信コマンドによる状態取得は可能です。
ログ出力	DIのON-OFFそれぞれにログデータが保存されます。
ログ出力+D0全てOFF	DI-OFF=>ONで出力中のD0が全てOFFになります。また、DI-ON中にはD0出力もOFF状態を保持します。DI-ON=>OFFになると、D0出力のOFF状態が解除されます。
ログ出力+トリガー出力OFF	DI-ON中の間、トリガー出力をOFFにすることが出来ます。 DI1-ON状態 - トリガー出力がOFF (使用例) 扇の開閉スイッチ又は赤外線センサーとのアンド処理等と組み合わせて使用します。

表2

PCコマンド制御	PCからの通信コマンドでD0を制御します。
SでON (D0時間でOFF)	[S]受信でD0を指定時間ONにします。※1
SでON/EでOFF	[S]受信でON、[E]受信でOFFになります。※1

※1 詳細は次のページをご覧ください。

[S]でON (DO時間でOFF)

DO動作モード	<input type="button" value=" [S]でON (DO時間でOFF) ▾"/> (Default:[S]でON / [E]でOFF)	<input type="button" value="Save"/>
DOエリアID	DO1: <input type="text" value="1"/> DO2: <input type="text" value="1"/> DO3: <input type="text" value="1"/> DO4: <input type="text" value="1"/> (0-247 Default:1-1) / 0:全てのエリアID	<input type="button" value="Save"/>
DO駆動時間	DO1: <input type="text" value="1"/> DO2: <input type="text" value="1"/> DO3: <input type="text" value="1"/> DO4: <input type="text" value="1"/> X 1Sec (0-3600 Default:1) / 0:自動OFFしない	<input type="button" value="Save"/>

DOエリアIDはDO個別に設定可能です。[0]なら全てのエリアIDが対象となり、[1]～[247]の場合は指定のエリアIDのみが対象となります。それぞれ最初の[S]受信でONになり、DO駆動時間(秒)経過後にOFFになります。

DO駆動時間に「0」を設定すると、自動OFFしない設定となります。

[S]でON / [E]でOFF

DO動作モード	<input type="button" value=" [S]でON / [E]でOFF ▾"/> (Default:[S]でON / [E]でOFF)	<input type="button" value="Save"/>
DOエリアID	DO1: <input type="text" value="1"/> DO2: <input type="text" value="1"/> DO3: <input type="text" value="1"/> DO4: <input type="text" value="1"/> (0-247 Default:1-1) / 0:全てのエリアID	<input type="button" value="Save"/>

DOエリアIDはDO個別に設定可能です。[0]なら全てのエリアIDが対象となり、[1]～[247]の場合は指定のエリアIDのみが対象となります。それぞれ最初の[S]受信でONになり、最後の[E]でOFFになります。

■ 詳細設定

Network (Protocol C)				
項目	説明	下限値	上限値	初期値
TCP接続モード	TCP通信（ログ取得用の接続）で、本製品をClientとするか、Serverとするかを設定（要再起動） [クライアント]：本製品の方からPCへ接続する ※1 [サーバー]：PCの方から本製品へ接続する	—	—	[クライアント]
機器ID自動通知	接続時、PCへ機器ID通知（接続通知）をするかしないかを設定 ※2	—	—	[On]
コマンドタイムアウト	TCP通信時、コマンド未受信による自動切断を行う時間を設定（秒単位） 設定時間内に通信コマンド（GetLog コマンド等）が受信出来ないと接続を切断	0	3600	20
TCPステータス	TCP通信状態が表示されます。 接続中は、接続先のIPアドレスが表示されます。			

※1 「MHCommTCP.dll」「TagExplorer.NET」を使用する場合は、必ず[クライアント]に設定してください。

※2 「MHCommTCP.dll」「TagExplorer.NET」を使用する場合は、必ず[On]に設定してください。

Network (HTTP)				
項目	説明	下限値	上限値	初期値
アップロード	HTTP(S)通信のOn/Offを設定	—	—	[Off]
アップロードURL	HTTP(S)通信先のURLを設定	—	—	dokoja V2 サーバーURL
アクセキー	HTTP(S)通信先のアクセキーを設定	—	—	
ステータス送信間隔	ステータスデータ送信間隔を設定 秒単位	0	3600	300
ステータス	現在の通信状況が表示されます。	—	—	

Receiver				
項目	説明	下限値	上限値	初期値
タグ周波数	受信可能なタグの周波数が表示されます。	—	—	
同受信時刻フィルター	有効にすると、タグID、エリアID、時刻が全て同じデータは全て[X]データとなります。 ※[S][E]同タイムが無効になります。	—	—	[On]
エリアIDフィルター ※1	受信可能なエリアID範囲の設定 複数設定時は論理和（OR動作）	1	247	• On/Off : On • From : 1 • To : 1

Trigger				
項目	説明	下限値	上限値	初期値
周期	トリガー出力周期を設定	25	60000	50
レベル正常値	トリガーレベルが正常値とみなすレベル値を設定	10	2000	300
AP Mode トリガー出力	Wi-Fi APモード時のトリガー出力ON/OFFを設定	—	—	[Off]

Etc (その他の設定)				
項目	説明	下限値	上限値	初期値
Webログイン認証	チェックなし WEB 設定画面へID/パスワード入力無しでアクセス可能 チェック有り WEB 設定画面へアクセスするには ID/パスワードの入力が必要	—	—	[Off]
WebユーザーID	ログイン認証に使用するユーザーID 入力可能文字 0-9/a-z/A-Z/_	—	—	matrix
Web/パスワード	ログイン認証に使用するパスワード 入力可能文字 0-9/a-z/A-Z/スペース以外の記号	—	—	1234
設定初期化	すべての設定を初期値に戻します（要再起動）	—	—	—

※ユーザーID/パスワードはファンクションスイッチ長押しで初期化できます。

製品の仕様

仕様

型番	MXRT-HT-N01
トリガー発振周波数	93.75KHz
受信周波数	315MHz帯
受信感度	-98dBm以下
動作電源電圧	DC12V、DC24V、DC48V
消費電力	通常10W以下 最大15W
過電流保護	リセッタブルヒューズ トリップ電流2.2A@20°C ホールド電流1.1A@20°C
通電表示	緑色LEDインジケータ
動作温度範囲	0°C~50°C ※動作温度範囲を超える環境で使用しないでください。ケースが変形し、 浸水・故障の原因となります。
動作湿度範囲	10%RH~90%RH (結露しないこと)
接点出力	4出力 (リレー接点)
接点入力	2入力 (基板上に実装)
通信	Wi-Fi 2.4GHz (IEEE 802.11 b/g/n)
筐体材質	ASA樹脂(耐候性樹脂)
外形寸法(W×H×D)	210×145×60 (mm) ※突起物は除く
質量	約1.5kg
保護等級	IP64相当

※意匠・仕様・ソフトウェアは製品改良のため予告なく変更することがあります。

正常に動作しない場合

本機が正常に動作しない又は異常な動作状態となった場合、下記の項目について確認をしてください。

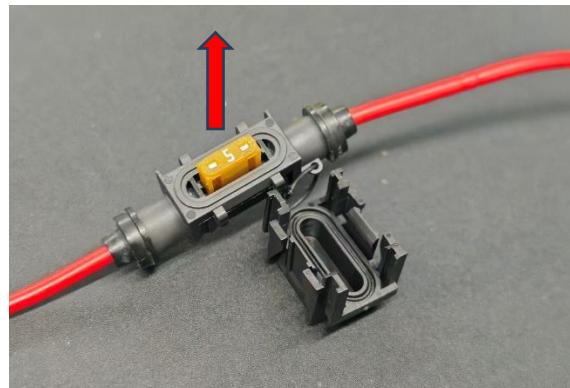
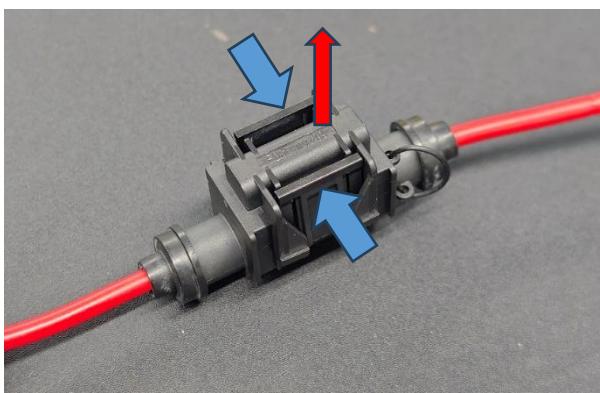
症状	原因	処置
キーオンにしても電源LEDが点灯しない	電源配線が確実に接続されていない。 または断線している可能性があります。	電源配線を確実に接続する。 断線している場合は配線を交換する。
	電源配線の極性が間違っている。	電源配線の極性を正しく接続する。
	DC入力電圧が高すぎる又は低すぎる 保護ヒューズが溶断している。	DC入力電圧と本機仕様が対応しているかを確認してください。 ヒューズの電流容量を確認してください。
信号灯の動作が不安定	車両又は付近に強力な磁界および電界の発生源がある。	受信アンテナを磁界および電界の発生源と思われる機器から遠ざける。
上記項目を確認し、 問題が無いにも関わらず 信号灯が動作しない又は ステータスLEDが点灯しない。	タグの送受信が妨害されている。	タグを所持する際は、携帯電話等のモバイル端末から遠ざけて下さい。 カラビナ等の金属ホルダーでタグを所持している場合はホルダーから外す。

※上記の症状に当てはまらない場合、または上記の原因をクリアにしても症状がおさまらない場合は、販売代理店か当社営業所までご連絡下さい。

ヒューズ交換の仕方

交換手順

1. 青矢印の部分をつまみながら上方向に引っ張りキャップを外し、切れたヒューズを取り出す。



2. 新しいヒューズに交換し、逆の手順で元通り組み立てる。

※・必ず5A低背ヒューズ(市販)と交換してください。
・防滴性を確保する為、カバーがしっかりとしまっているか必ず確認してください。